

No.460

## ぶよぶよなイシクラゲ

退治したい？ 食べたい？

土の上や芝生、コンクリートにべったりと広がる青緑色や黒緑色のぶよぶよなものを見たことはありませんか？ 気持ち悪く、踏むと滑りさわれものです。その正体は、ラン色細菌(ラン藻ともいわれます)のなかまのイシクラゲです。

時々、退治方法をたずねられます。熱湯または薄めた酢をかけると一旦は退治できますが、しばらくするとまた出てきます。根本解決のためには、まずイシクラゲを知ることが必要です。

イシクラゲは、光のエネルギーで水と酸素から糖をつくる光合成をして生きているので、光のあたる開けた場所を好みます。体の重さの10倍ほどの水を吸ったぶよぶよな時に光合成を十分にするので、水はけの少し悪いところを好みます。乾くと黒い薄っぺらなノリのようになり、さわるとパリパリこわれます。この時は光合成はできず、呼吸はほとんどせずに休んでいます。しばらく乾いても死ぬことはなく、雨にぬれると水を吸ってぶよぶよに戻り、光合成もほぼ完全に復活する強さを備えています。このため、地面が暗くなるように草木を植えるか、水はけをよくし、イシクラゲが好まない環境に変えるのが効果的な退治方法です。

もう一つ、私がやってみたささやかな方法は、ゆでて食べることです。味はなく、見た目そのままのぶよぶよした食感です。滋賀県姉川や沖縄ではよく食べられていたようです。食べられるとわかれば、気持ち悪さがへり、退治する気もへるかもしれませんね。イシクラゲに近い種類に、清流の中の石やコンクリート壁にくっついて育つアシツキがあります。アシツキはアシツキノリとも呼ばれ、食べられます。(坂井奈緒子)



イシクラゲ  
姉川クラゲ、岩キクラゲとも呼ばれます。